

# 英語で内容的にまとまりのある文章を書かせるための指導はどうあればよいか ー表現意欲を高める指導過程の工夫とパラグラフライティング指導を通じてー

長期研究員 鈴木 信司

## I 研究の趣旨

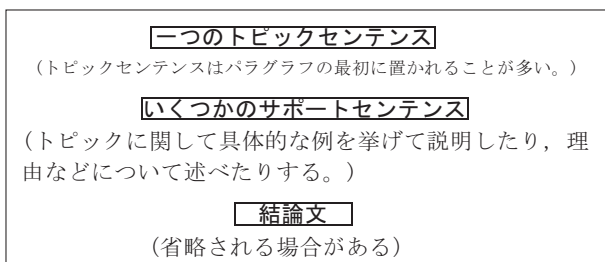
過去3年間の福島県立高等学校入試の結果を見ると、比較的長い日本語を英文に直す条件英作文の平均正答率が一桁台と低い。また、新学習指導要領には、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」が新たに追加されており、「書くこと」の中でも、特に、ある程度の分量があり、読み手に伝わりやすい文章を書く力を身に付けることが重要な課題であると思われる。その課題の解決に向けて、パラグラフライティングの方法によって、書く活動に取り組みせ、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力を高めたいと考え、研究に取り組んだ。

## II 研究の概要

### 1 パラグラフライティングについて

パラグラフライティングとは、自分の考えや気持ちなどについて内容的にまとまりのある一貫した文章を書くための方法である。中学生の英語学習に必要なと思われる特徴は次のとおりである。

#### (1) 典型的な英文パラグラフの構成



#### (2) 結束性(文と文のつながり)と内容の一貫性

中学校2年生の段階でも、代名詞や接続詞などによって、文と文との文法的な結束性を生み出すことは可能である。また、内容の上でも同一のトピックのもとで文章が展開されるので、まとまりや論理的な一貫性が生まれる。

### 2 生徒が意欲的に「書くこと」の活動に取り組むための指導過程の工夫について

生徒たちが意欲的に「書くこと」の活動に取り組むことができるよう、次のような手立てで指導にあたるようにした。

#### (1) 授業の前に

##### ① 週末課題

writingを行うための土台となる語彙を増やし、既習の文法を復習する課題に取り組んだ。毎週繰り返すことによって、「書くこと」の活動に慣れさせた。また、代名詞や接続詞などを使って、文と文との結束性を高める練習も行った。

##### ②ブレインストーミング

授業の前にブレインストーミングを行い、書くためのアイデアを引き出した。今回は、白河市の紹介文作成に向けて、限られた授業の時間を補うために、週末課題で、書くためのアイデアを考えさせた。

#### (2) 授業の中で

##### ① chunkの提示

今回の実践では、表現の一つのかたまりのことをchunkと呼んだ。例えば、I like it because it's... (…なのでそれが好き)のように、英文を書く際、いくつかの表現の型を提示することによって、生徒にとって労力が必要な逐語訳的な和文英訳を避けられるようにした。

##### ② アウトラインの作成

アウトラインとは、文章全体の骨組みや構成のことである。内容にまとまりがある一貫した文章になるかどうかは、アウトラインをどのように組み立てるかに左右される。そのため、今回は特に、文と文との結束性を意識させてアウトラインを作成した。

##### ③ ピアレビューから書き直しへ

ピアレビューとは、仲間同士で評価し合うことである。今回の場合、アウトラインをグループの仲間同士で読み合い、お互いに意見を出し合って、一度

書いた内容をよりよいものにしようとする活動を行った。

### (3) 授業の後に

#### ○ 教師によるフィードバック

完成した生徒の英文を教師が評価し、その結果を生徒に返すことである。今回は、次回以降のwritingに対する意欲付けにつなげるため、励ましのコメントを教師が記入したものを返却するとともに、廊下に作品を掲示し、互いのよさを学び合えるようにした。

## Ⅲ 研究の実際

研究協力校における授業実践を次のように行った。

- 1 対象 中学校2年生 4クラス
- 2 題材 New Horizon English Course Book 2  
Multi Plus 3 わたしの町
- 3 週末課題におけるブレインストーミング

writingをさせる際に、「何を書いてよいか分からない」と、書く内容を考えるだけで時間を浪費してしまう生徒が多い。いきなり書かせるのではなく、書き出す前に、何について書くのかトピックを決め、更にそのトピックについて関連するアイデアを挙げさせておくことが求められる。今回は、授業の中でトピックやそれに関連するアイデアについて考える時間が十分に取れないため、週末課題の中で、「白河のお土産を三つ選ぶとしたら何？」などの質問に答えながら、トピックやトピックについて詳しく話を展開するためのアイデアについて事前に考えさせた。

#### 4 chunkの活用について

事前のブレインストーミングによって、白河市の何を紹介するのか決まっている生徒がほとんどであったので、授業では、教科書にあるwritingのためのモデル文の内容を理解させ、音読練習を行った後、早速、白河市の紹介文作成に移ることができた。writingをさせる際に一番の障害となるのが、和文英訳の作業である。「これは英語でどう書いたらいいですか」という質問の声に一つ一つ対処するのは困難であり、指導が煩雑なものになってしまう。そこで、chunkを活用することで、日本語から英語へ

の逐語訳的な和文英訳を行わずにwritingを行えるようにした。

白河の紹介文作成用 Tool Box	
アルファベット (A) 内容 (白河の地名を紹介する英文)	※白河の紹介文を書き始めるために、トピックとなる白河の地名を紹介する英文を書く。
① I live in _____ . 「わたしは _____ に住んでいる。」	
② My hometown is _____ . 「わたしの生まれた町は _____ です。」	
-----	
アルファベット (B) 内容 (ものかもの以外についての説明)	※白河を代表するもの(食べ物、お土産、名産品等)やもの以外(名所、建物、人物、お祭り等)について説明する。
① I like it because it's _____ . 「わたしは _____ なのでそれが好きです。」	
② It is my favorite (sweet / food など) in Shirakawa because it's _____ . 「...なのでそれは白河でわたしがいちばん好きな(おかし / 食べ物 など)です。」	
③ There is/are (many) _____ in Shirakawa, so we can / enjoy _____ . 「白河には(たくさんの) _____ があります。それで、 _____ ができます/楽しめます。」	
-----	
アルファベット (C) 内容 (紹介したいものかもの以外の名称について)	※白河を代表するもの(食べ物、お土産、名産品等)かもの以外(名所、建物、人物、お祭り等)の名称について紹介する。
① It's famous for (its) _____ . 「 _____ で有名です。」	
② _____ is a speciality of Shirakawa. 「 _____ は白河の特産品・名物です。」	
-----	
アルファベット (D) 内容 (白河の位置について)	※地理的な位置について紹介する。
① It's in the _____ of (Fukushima/ theTohoku region / Japan など) . 「(福島 / 東北地方 / 日本 など)の _____ 部にある。」	
② It's near _____ . 「 _____ の近くにある。」	
③ It's next to _____ . 「 _____ のとりにある。」	
-----	
アルファベット (E) 内容 (結びの文)	※白河を好きな気持ちや白河を訪れてほしい気持ちについて表現し、紹介文を結ぶ。
① I love my (city / hometown) . 「私は、私の(町 / 生まれた町)が大好きです。」	
② Why don't you come to/ visit _____ ? 「 _____ に(を)来て / 訪れて みませんか。」	
③ I hope you will come to/ visit _____ . 「 _____ に(を)来る / 訪れることを期待します。」	

〈chunkを提示したワークシートの一部抜粋〉

## 5 アウトライン作成について

初めて取り組むパラグラフライティングの大切な要素を理解させるため、順不同に並んでいるchunkを、文と文との結束性や文章全体の内容の一貫性を意識しながら並べ替えることによってアウトラインを完成させた。

「白河の紹介文作成に向けてアウトラインを決めよう」	
① 別紙 Tool Box のA～Eから書いてみたい英文のパターンを <b>一つずつ</b> 選ぶ。	
② 選んだ英文を、自分がいちばんよいと思う順番に並べ、プリントに書き込む。	
③ 英文の並び替えが終わったら、それぞれの英文の _____ 部 ( _____ 部) に英語を書く。	
Name	
アルファベット (A) 内容 (白河の地名を紹介する英文)	
※別紙 Tool Box のAの中にある英文で紹介文を始める。	
アルファベット ( ) 内容 ( )	
アルファベット ( ) 内容 ( )	
アルファベット ( ) 内容 ( )	
アルファベット (E) 内容 (結びの文)	
※別紙 Tool Box のEの中にある英文で白河の紹介文を結ぶ。	
アウトラインが決まったら、	
○グループでまだ終わらない仲間の手伝いをしましょう。	
○そして、上のアウトラインにもう一つ付け加えてみたい文を考えてみよう。	
付け加えたい文 付け加える場所 ( ) と ( ) の間※アルファベットを書く (不完全でもよいので英語で書けるときは英語で書く。無理なときは日本語で書く。)	
※次の授業では、友達からアドバイスをもらいながらアウトラインを修正します。このプリントに書いた英文を赤ペンで修正しましょう。	

〈アウトライン作成のためのワークシート〉

## 6 ピアレビューから書き直しへ

生徒各自のアイデアをよりよいものにするために、完成したアウトラインをグループで読み合い、参考にしたい表現や付け加えてもらいたい点などについてアドバイスをし合った。その後、仲間や教師からのアドバイスをもとに書き直しを行い、清書へとつなげた。

## 7 教師によるフィードバック

### (1) 英語の誤り等についての訂正

第1時間目にアウトラインを完成していたので、それをコピーしたものに赤ペンで訂正を入れた（アウトラインの原本は次時のピアレビューで使用するので、生徒同士の話し合いに影響しないようにするため）。それをもとに、第2時間目のグループでのピアレビュー時に机間支援を行った。

### (2) 励ましのコメント

次回以降のwritingへの意欲付けにつなげるため、完成した英文に対して、賞賛したり、共感を表したりするコメントをワークシートへ記入した。

## IV 研究のまとめ

### 1 成果

#### (1) 週末課題の取組みから

① and, because, but などの接続詞を使って文と文との結束性を高めるための練習を行った結果、授業の中で作成した英文の中で、多くの生徒が接続詞を正しく活用した。事後アンケートの結果でも、文と文との結束性を意識して、and, so, becauseなどの接続詞を使った英文を書くことができたと答えた生徒が8割に達した。

② 今回の授業実践に向けて、紹介したいトピックについて週末課題プリントの中でブレインストーミングに取り組ませた結果、授業の中で、「何について書いたらよいか分からない」という姿がほとんど見られず、ほとんどの生徒がスムーズに英文を書き始めることができた。

#### (2) 授業実践におけるchunkの活用から

chunkを活用したことで、効率的な指導ができ、決められた時間（2時間）の中で下位生徒を含む全員の生徒が紹介文を完成するというねらいを達成す

ることができた。事後アンケートの結果でもchunkを活用したことで、以前よりも、英文を書きやすいと感じた生徒の割合が8割に達し、教師や友人の助けを借りずに英文を完成させることができたと答えた生徒が7割を超えた。

I live in Shirakawa. It's in the south of Fukushima. Nanko Dango is a speciality of Shirakawa. I like it because it's delicious. I love my city.

<下位生徒が作成した紹介文の一例>

#### (3) 文と文との結束性や内容の一貫性を意識したアウトラインの作成について

アウトライン作成を通して、パラグラフライティングの大切な要素である、文と文との結束性や内容の一貫性に対する意識の高まりが見られた。その一例を以下に示す。

Shirakawa is nice. It's in the south of Fukushima. I like Shirakawa Chinese noodles because they are delicious. It's famous for daruma. Why don't you come to Shirakawa?

上記アウトラインに対して、「ラーメンの話題からだるまの話題にいきなりとんだのはなぜ?」、「白河ラーメンについての内容をもっと書いてほしい」等のアドバイスがピアレビューでの仲間からのコメントにあり、それを受けて、教師がアドバイスする前に次のように改善することができた生徒もいた。

Shirakawa is nice. It's in the south of Fukushima. It's famous for its Chinese noodles. I like Shirakawa Chinese noodles because they are delicious. Please try eating Shirakawa Chinese noodles. Why don't you come to Shirakawa?

事後アンケートの結果でも、文と文との結束性や内容の一貫性を意識して英文を書くことができた生徒が8割を超え、読む相手にとって分かりやすい英文を書こうと意識しながら取り組んだ生徒も9割近くいた。

#### (4) ピアレビューから書き直しへ

「and, so, becauseなどのつなぎ言葉を使っているか」等、グループで行うチェックの観点を具体的なものにしたことによって、書き直しをする際、仲間からのアドバイスをもとに英文を改善することができた生徒が多数見られた。改善が見られた一例を次に示す。

I live in Shirakawa. It's in the south of Fukushima. It's famous for daruma festival. There are many darumas and foods in the festival. Why don't you come to Shirakawa?

#### <ピアレビュー前の英文>

そして、ピアレビューでの仲間からのアドバイス、「andやbecauseなど文をつなげる接続詞を使っている」等を受けて次のように書き直したのである。

I live in Shirakawa. It's in the south of Fukushima. It's famous for daruma festival. There are many darumas and foods in the festival. I love the festival because it's a lot of fun. Why don't you come to Shirakawa?

#### <書き直した英文>

書き直し後、2回目のピアレビューを行ったが、「interestingではなくfunを使ったことで、だるま市の魅力がさらに伝わる文章になったと思います」のようなコメントも見られた。事後アンケートの結果でも、ピアレビューで仲間と英文を読み合うことを楽しいと感じ、なおかつ、ピアレビューを行うことによって仲間の書いた英文の優れたところを学ぶことができたと思えた生徒が8割を超え、また、ピアレビューでの仲間からのアドバイスを参考にして、内容等を改善させながら書き直しを行うことができた生徒が9割に達した。

#### (5) 生徒の感想から

週末課題や今回の授業に対する感想を自由記述で書かせた結果、次のようなものがあった。

- ・ 週末課題に書いてある先生のコメントを見ると、「がんばって書いてよかった。」と思います。長い文を書くことに抵抗が少なくなりました。
- ・ 例文集(chunk)があったので、書き方がすごく分かりやすく、すぐに理解できました。
- ・ 英文と英文とのつながりなどについてとても理解しやすく、覚えやすかったです。
- ・ 授業の内容は難しいと思っていたけれど、やってみたら意外に簡単でした。例文集が分かりやすかったです。長い文章を作れてうれしかったです。また作ってみたいです。
- ・ 自分で考えたことを自由に表現することができてとても勉強になりました。先生からのコメントでほめてもらったのもうれしいです。

これらの記述から、「書くこと」の活動を最初は難しいと思っていた生徒たちも、書く方法を理解しながら練習を積み重ねることによって「書くこと」に慣れ、自分の考えを以前より長い文章で表現することに喜びを感じるようになってきたことが分かる。また、「書くこと」に対する意欲を向上させる

ためには、生徒が書いた英語に対して、励ましのコメントを与えることが有効であることも分かる。

## 2 課題

### (1) 変容、高まりが感じられる指導過程の工夫

1回目のピアレビューで仲間から改善するためのアドバイスがあまり出されず、書き直しまでの変容や高まりがあまり見られないグループもあった。改善に向けて以下のような方策が考えられる。

- ① ピアレビューを行うとき、グループで読み合うのではなく、ペアによる話し合いをさせる。そうすることによって、「なぜそう思うのか」、「これは具体的に言うときどうということなのか」などの質問を互いに直接出し合い、できる限り、読み手が納得のいくような内容に近づけていくことが可能になると考えられる。
- ② アウトラインを完成した後、全体で共有化を図る必要がある文法上の誤り等について教師がプリント等にまとめて提示することによって、学級全体にフィードバックし、仲間同士で行うピアレビューや、自分自身で再度見直しを行う際の重要な観点にする。

### (2) 思考力や表現力の育成に向けて

- ① パラグラフライティングを思考力や表現力をはぐくむために大変有効な手立てであるにとらえ、単発の指導で終わることのないように、年間指導計画に位置付けて計画的に指導を継続していく必要がある。
- ② パラグラフライティングを機械的に行わせるのではなく、「文と文との結束性が高く、内容に一貫性のある文章」が持つ論理性を理解させていくために、内容や意味のつながりに着目させながらつなぎ言葉を用いる練習をさせたり、上位概念や下位概念について考えながら分類整理法に取り組みせたりするなど、クリティカルシンキングとの関連も重視していきたい。
- ③ 自力で一度英文を書かせてから、学級全体にフィードバックする必要がある表現をchunk化して示すなど、chunkの提示方法を工夫することによって表現の幅を広げ、表現したいと思うことを自分の言葉で表現できるようにさせていきたい。